

## 高齢者の働き方

NPO 法人高齢社会をよくする女性の会理事 昼間洋子

人生 100 年時代が実感を持ってきた昨今、学校でも働き方について教える機会がある。一つは資格を持つこと。学歴と資格がこれほど自分を助けてくれることを実感している。また、最近よく聞く「リスクリング」という言葉は特に再就職を探す女性には役にたつワードだ。女性は働き始めても、結婚や出産で離職する割合はまだ多い。最近の調査では働き続ける女性の割合は増えてきているが、仕事と家事育児の両立の負担は、依然女性に重くのしかかっている。やむを得ず、離職を選ぶ場合も多いが、ぜひリスクリングの機会ととらえて、次の仕事に進む助走にしてもらいたい。

去年の全国大会で、和田先生の講演で心に残ったのは、富士山型ではなく、八ヶ岳型の働き方だった。女性はフレキシビリティに優れている人も多く、いろいろなことを同時進行でやり遂げる能力もある。これがダメなら次はこれというように常に次の場面を予測して、足を止めないで動き続ける底力が必要だ。

生徒によく話すのは千葉県の偉人伊能忠敬だ。かれは佐原の商家で婿として手腕を発揮し、隠居後にご存じのように日本地図を作り上げた。江戸時代の身分制度の中で自分のやりたいことをやったのは凄い。進学就職を選ぶ中で、不本意な進路から中退、退職してしまう若者は多い。最初から思う通りにはいかないし、後から自分の適性が分かってきたり、やりたいことが見つかったりする。長寿社会のお陰で私たちには長い老後とやり直す時間がある。夢をあきらめないでほしい。

私が大学を卒業した時はオイルショック後で、大変就職は厳しかった。女性は短大卒自宅通勤が主流で、四大卒なおかつ下宿の場合は敬遠された。教育学部卒だが、学校よりも実業の社会に魅力を感じ、アパレル業界に進み、転職をしてファッション業界で 20 年以上働いた。その間、雇用機会均等法ができ、女性の総合職がもてはやされた。会社でも彼女たちの華々しさの陰で、「マザーズトラック」をトボトボ走っていた。出身大学から大学院開設の案内が来、思い切って挑戦した。仕事と子育てと学業を並行してできたのは若さゆえか。

その時の縁で、高校の非常勤講師の声がかかった。それから 20 年以上教育現場で働いている。大学新卒の何も知らないで現場に入った先生よりも、世の中を見てきた分視野が広いと自負している。資格とリスクリングは実体験からのワードである。